

北海道の左上、
海と星の近くで農家として暮らそう。

Shosambetsu

★ 北海道 ★
★ 初山別村 ★
しよ さん べつ むら
新規就農応援ガイド



北海道の北のはずれ、初山別村。

初山別村は北海道の北西部、留萌地方に位置する北のはずれの小さな村です。

都会のような便利さはありませんが、穏やかな気候と海、山、田畑、美味しい空気と星空、そして人の温かさに恵まれた地域です。



Shosanbetsu

総面積 279.51km²

病院

診療所 1
歯科診療所 1

総人口 1,046人

学校

託児所/保育所/
小学校/中学校 各1

初山別村の特産・農産品

初山別村ではオロロン米を使用した「ほしおこし」や「きむら牛」、初山別産の生乳やハスカップを使用した「しょさんべつアイス」などの農産品、道内でも有名な産地であるタコやふぐを使用した「珍味」や「ふぐだしスープ」などの海産品があり、魅力的な特産品がたくさんあります。

村のおすすめスポット

しょさんべつ天文台



しょさんべつ天文台は、みさき台公園内にあり、道北随一の大きさを誇る65cmフオーク式反射天体望遠鏡をはじめとする望遠鏡が設置されており、夜空に輝く星を間近で見ることができま。

金比羅神社



昔、この岬に流れ着いた金比羅様の御札を地元の漁師が奉った後、この付近での海難事故が減ったと言い伝えられています。海の中に建つ鳥居に重なる夕日は、絶好のシャッターポイントです。



新規就農までの流れ

Flow of New Farming

農業を始めるためには、営農技術に加え、農地・資材・施設等の確保や経営が安定するまでの生活費等も必要となります。事前によく調べてから具体的な計画を立てておくことが大切です。初山別村では、新規就農を希望されるあなたを手厚くサポートします！

Step 1

就農相談

新規就農相談会などを随時実施しています。
お気軽にお問い合わせください！



Step 2

体験研修・見極め研修

- ・農業体験（4月～10月）
- ・就農の意思確認、決定



Step 3

実地研修（1～2年）

- ・栽培技術、ノウハウの習得
 - ・就農準備
 - ・地域への溶け込み
 - ・具体的な就農計画の作成
- 金銭面での支援も充実！詳しくは別紙をご覧ください。



Step 4

収支計画作成

農地・資金・機械・施設・販路などの計画策定

Step 5

就農

研修受け入れ農家や行政等が継続的に指導を行います。
早期の経営安定を目指しましょう！
就農時ももちろん補助金が出ます！詳しくは別紙をご覧ください。



5年後、経営安定！

農家として定着し、農業所得“230万円”以上を目指しましょう！

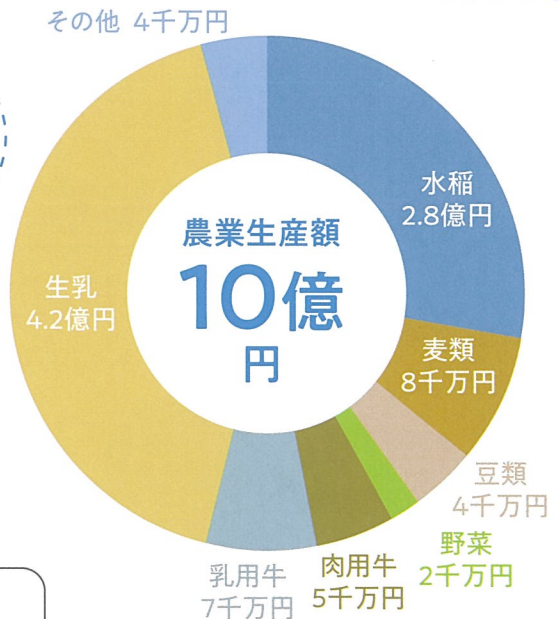
初山別村での就農スタイル

Farming Style



データで
見る農業

稲: 260ha 大豆: 95ha てん菜: 8ha
 小麦: 297ha 小豆: 1ha その他: 33ha



もち米

るもいエリアは
お米づくりの「日本最北地」

収穫時期: 9月~10月
 平均経営規模: 1,001a
 平均年間売上: 14,720,172円



平成10年にうるち米からもち米へ転換し、もち米団地の指定を受け、全量ライスセンターにて色彩選別機で調整を行い、『品質の均一化』を図り出荷しています。主な販売先はJAを通じ、全国の加工もち業者や米飯用としてコンビニエンスストアなどに供給しています。



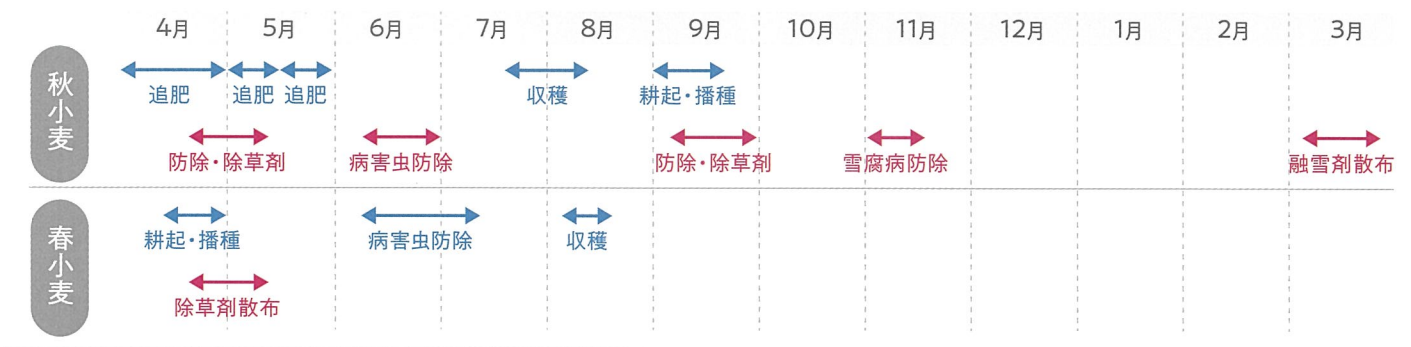


「高級バゲット」の原料に

秋まき小麦は「ゆめちから」（超強力品種）、
「きたほなみ」（中力品種）が、春まき小麦は
「春よ恋」が栽培されています。主にパンの
原料に使われることが多く、高級バゲットの
原料として製粉業者を通じて出荷されてい
ます。

小麦

収穫時期：7月～8月
平均経営規模：929a
平均年間売上：863,637円



大豆

ミネラル分豊富な土壌で育った上品な甘さ

豆腐加工適性の高い「ユキホマレ」「とよみづき」「とよまどか」の中大粒種3つが栽培されています。近年、大豆をグレンドリルでは種する狭畦栽培が盛んになっています。

収穫時期：10月
平均経営規模：329a
平均年間売上：1,394,287円



皮が丈夫で煮豆に最適

近年、大豆に押されがちで規模も小規模ですが、初山別村では風味豊かで食味の良い「とよみ大納言」を栽培しています。

小豆



収穫時期：10月
平均経営規模：10a
平均年間売上：1,137,146円

てん菜

直播による省力栽培

全量、製糖業者との契約栽培で、小規模ながらも畑作の輪作作物の一つとして重要な位置を占めています。輪作は、小麦、大豆、てん菜の3種類で構成されています。

収穫時期：10月
平均経営規模：171a
平均年間売上：2,655,436円



先輩就農者に聞いてみた!

interview 01

PROFILE

おぎはら み お
荻原 光央さん

令和4年就農

女性でも活躍できる農業の前例を作りたい

学生時代から描いた農業の夢 離農する果樹園で学び事業継承

愛知県出身の荻原さんは、学生時代から農業に興味があり、三重県にある農業高校に進学しました。しかし卒業後、農業関係の仕事には就かず、保育士の道へ。“自然の中で働きたい”という気持ちは心のどこかにありながらも、忙しい日々を送っていました。そんな中、偶然知人の紹介で離農を考え後継者を探しているという果樹農家さんに出会いました。話を聞いた荻原さんは、こんな機会はないとすぐに決断。保育士を20代半ばで退職し、初山別村へ移住しました。

その農家ではリンゴにサクランボ、ナシなどを中心に栽培していました。荻原さんは農業高校に通っていたものの、専攻が違ったため、果樹栽培の経験はほとんどありませんでした。そこで、剪定作業から害虫の対策、病気の予防に収穫と2年間かけて学び、令和4年に土地と建物・農機具を継承する形で新規就農しました。先代から引き継いだ果樹園には老木も多かったため、新たな取り組みとして初山別村の名産品でもあるハスカップの栽培にも挑戦。毎日、明確な目標を持って仕事ができることにやりがいを感じているといいます。



初山別村で初めての取り組み グローバルな視野でチャレンジ

昔から自然が大好きで“田舎に行けば元気が出た”という荻原さん。海も山もある初山別村では、果樹園で作業中にふっと目をあげると息を呑むような絶景が広がっていて、思わず見とれてしまうこともあるそうです。農作業の休憩中は近所の農家さんを訪ねて世間話をするこも。都会にいた時は隣りの住人が誰かもわからない生活だったため、かけがえのない時間だと感じているそうです。まだまだわからないことも多い新規就農2年目ですが、「本当に温かい人ばかり。この地域で困ったことがあってもきっと大丈夫。誰かが駆けつけて、すぐに助けてくれるんです。」と、先輩農家や役場のサポートも手厚い様子。

荻原さんには、有機栽培に挑戦し、世界に向けてマーケットを広げていきたいという夢があります。これは初山別村でも初めてのケースです。「女性でも活躍できて、色々なことにチャレンジできる前例を作っていきたいです。これからはAIも活用したスマート農業の時代。力作業のイメージも変えていきたいです。」今年から荻原さんのお姉さんも農場に加わり、パワーアップ。村の期待を背負って躍進は続きます。

先輩就農者に聞いてみた!

interview 02

PROFILE

さ こ ひろし
佐古 大さん

令和元年就農



異業種・未経験から新規就農の夢を叶える 手をかけた分だけ応えてくれる農業の魅力

「通勤電車の中吊り広告と目が合って人生が変わりました」と笑う佐古さんは北海道札幌市の出身。大学で東京に進学し、そのまま電力・建築関連の仕事に就きました。10年間勤めた節目に、北海道に戻りたいと考えるようになり、そんな時に広告で知ったのが初山別村の地域おこし協力隊の制度でした。年齢を考えても悩んでいる暇はないと、35歳の時に移住を決意。3年間の任期の中で農家さんのお手伝いをする機会も多く、「農業は地域を支え、人の役に立つ仕事」だと感じ、新規就農を志すようになりました。北海道と初山別村から支給される支援金を受けながら、2年間の農業研修を経て、令和元年に新規就農。異業種で全くの未経験から夢を叶えました。



現在はもち米を中心に麦や大豆などを栽培。1年かけてコツコツとやった日々の仕事が、収穫量や作物の品質で返ってくることに、会社員時代では味わえなかったやりがいを感じているそうです。「わからないことはなんでも先輩のベテラン農家さんが教えてくれた」と当時を振り返る佐古さん。農業に感じていた孤独さは全くなく、地域とともに成長できたと話します。

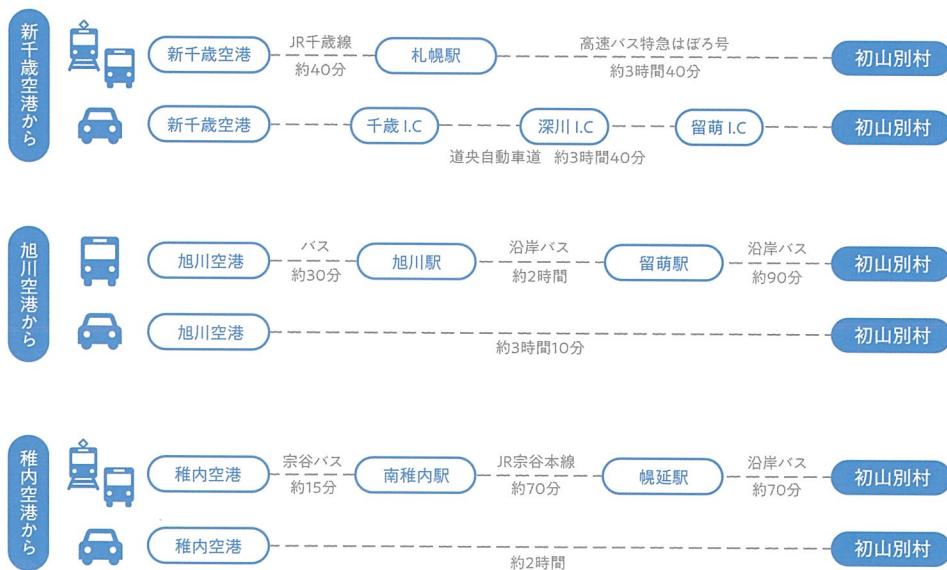
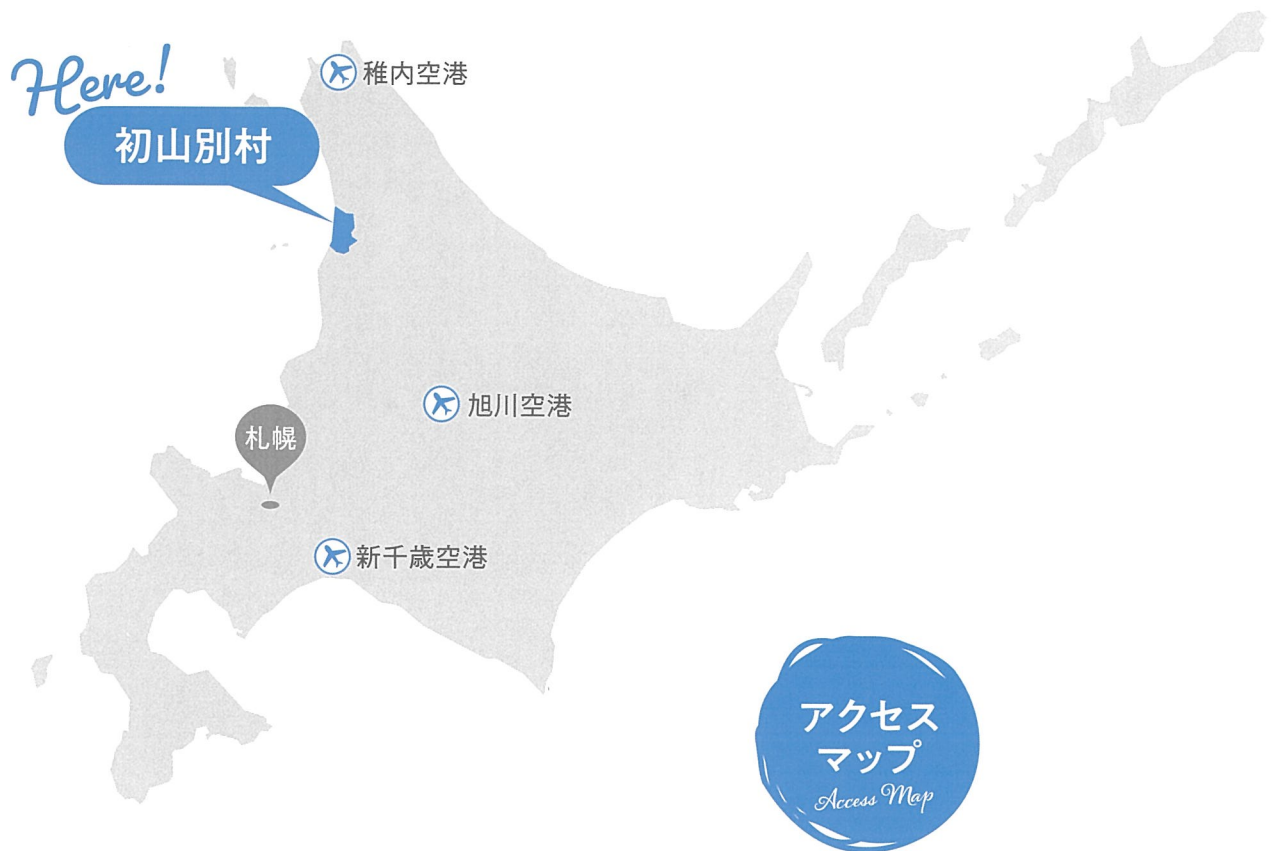


不便そうで不便じゃない! 大自然の中で健康的に暮らす喜び

東京から初山別村に移住した佐古さん。そのライフスタイルはガラリと変わり、満員電車で揺られることも、帰宅が深夜になることもなくなりました。おのずと帰宅前の遊び歩きや無駄遣いをする機会も減り、早寝早起きで健康的な生活に。田舎暮らしではあるものの、買物はインターネットで何でも手に入るので不便さも感じていないそうです。「初山別村に来て、野菜をたくさん食べるようになりました。魚も漁師さんがくれるので自分で捌きますよ。留守だと玄関前に置いていつくれるんです」と大自然の中での暮らしを楽しんでいます。

佐古さんの初山別村での仕事は農業だけにとどまらず、夜は「先生」に变身。自ら経営する村で唯一の学習塾で小学生から高校生までの学生に勉強を教えています。子どもからご年配の方まで、こんなに幅広い世代と関わる人生になるとは、と移住したことによる生活の変化が自分でも信じられない様子。「移住に興味がある人は自分の可能性を信じてぜひチャレンジしてほしい。今度は私が支える番です」と、次の世代の育成にも力を注ぎ意気込み。農業に教育、自分の経験が地域の役に立っているというやりがいが、佐古さんを奮い立たせます。

この地域で人の役に立つ仕事がしたい



お問い合わせ

初山別村 地域担い手育成センター

〒078-4421 北海道苫前郡初山別村字初山別96番地1
TEL : 0164-67-2211 FAX : 0164-67-2298 MAIL : keizai.nourin@vill.shosanbetsu.lg.jp
<http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/>

初山別村
公式HPはこちら

